

Ⅰ 学校教育目標

福津を愛し、健やかで、未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成

Ⅱ 学校経営の基本的な考え方

生徒1,380人の多様な他者との関わりを学びを深める機会

- ・人間関係の希薄化、不登校や集団適応の課題の組織的対応
- ・いじめ、SNS起因の人権意識の低下への未然防止、人権教育
- ・対話を基盤とした人間関係形成を教育活動の位置づけ、学校経営の中核とする。

Ⅲ 令和8年度 重点目標

「自他や地域との対話と協働を通して主体的に学び続ける生徒の育成」

【対話とは】 対等な立場で互いの考えや思いを受け止め、関係調整しながらよりよい解を見出そうとする営み。



Ⅳ 重点目標を支える5つの挑戦【重点取組】

① 人間関係形成能力の育成

【最重要】すべての教育の基盤

- 人間関係調整スキルの向上
 - ・GWTと対話による集団づくり
 - ・人権教育(モラル教育)の推進
 - ・本物・直接体験による協働活動
- 安全・安心な環境づくり
 - ・いじめを生まない取組の充実
 - ・支援を要する生徒の支援体制構築
- 生徒の役割と出番の創出
 - ・生徒が主役の出番と役割づくり

② 主体的・対話的で深い学びの推進

授業改善と確かな学力の定着

- 効果的な対話活動の推進
 - ・目的や視点を明確にした対話活動
 - ・「捉える」⇒「深める・広げる」⇒「再構築」の学習過程の工夫
 - ・教科の見方や考え方を働かせる自分や他者との対話活動
- 学習課題克服セルフ25の充実
 - ・個人学習⇒学び合い⇒振り返り
- 学習調整力・課題解決力の育成
 - ・自分の考えを振り返る活動を通して学習調整や課題解決

③ CSふるさと学習の充実

地域協働と社会参画

- 地域との対話によるCS行事
 - ・回し読み新聞、トーク・フォーカダンスによる対話力の育成
- ワンヘルス教育の推進
 - ・人・動物・自然の健全性を一体的に捉える福津の豊かな自然(松林)を活かす学びの充実
- 地域の課題解決への参画
 - ・「未来会議」による福津市の課題解決に向けた福中発まちづくりの企画発表と地域参画

④ 働き方改革とウェルビーイングの推進

教職員の働きがいと安心・信頼のある環境づくり

- 持続可能な行事精選 ●働きやすさ環境づくり
- 部活動の地域展開の推進 ●外部人材派遣協力
- 超過勤務縮減に向けた業務改善

⑤ 組織的対応(チーム力)の強化

教職員の同僚性とチーム力の向上

- 生徒一人ひとりを見取る支援体制の構築
- 若年教員のメンタリングチームによる人材育成
- 安全管理・危機対応の連携の強化

めざす子ども像

まなび

自ら考え表現し、対話を通して高め合う子

こころ

多様性を認め、自他を尊重する子

からだ

よりよい体をつくり、生活する子

ふるさと

地域にかかわり、つながる子



育てたい資質・能力

- 主体性：自ら考え、選択・決定し学ぶ姿
- 協働性：多様な他者と対話や協力する姿
- 課題解決力：粘り強く課題に取り組む姿
- 創造性：新たな発想で工夫や改善する姿

令和8年度 重点目標における成果指標

【福間中校区共通評価項目】

- ・授業で自分で考え自分から取り組む
- ・友達と話し合い考えを広め、深めている
- ・自分から挨拶/自分に良いところがある/地域が好き



- ・全国学力標準化得点国語：108P以上、数学：110P以上
- ・いじめ認知件数・不登校率の適正化 :前年度比との比較
- ・学級集団満足度 : 2回目 学級集団満足群の向上
- ・要支援群の生徒数減少 : 1回目と2回目との比較 (減少)

→各項目【肯定的評価8割以上】を目指す